様式3　令和7年度 香南市保育所評価報告書　　香南市立吉川みどり保育所

経営理念	【保育目標】あふれる笑顔 ともだち大好き みどりっ子 【経営目標】『子ども一人一人を大切にし、保護者に信頼され、愛される保育所』をめざす <子ども像> ○あいさつができる子ども　○あかるく元気な子ども　○思いやりのある子ども　○最後までやりぬく子ども　○友だちと協力しあう子ども <保育所像>○一人一人の子どもを大切にする保育所　○基本的生活習慣を身につけ、しなやかでたくましい子どもが育つ保育所　○夢を育み、子どもの笑顔が輝く保育所 ○保護者、地域から信頼される保育所　○地域を理解し、保護者とともに子育てをする保育所　○保小中高の連携を大切にする保育所 <保育士像>○子どもとの信頼関係を大切にする保育士　○保護者によりそい、信頼関係を築く保育士　○意欲を育む環境を考える保育士 ○チームワークを大切にする保育士　○豊かな人権感覚を身につけた保育士　○専門性の向上に努める保育士

中期経営目標		重点目標	評価項目	自己評価		保育所関係者評価		改善策等
				達成状況	評価	考察	評価	
保育・教育活動の充実	幼児期の発達や学びを踏まえた保育環境づくり	一人一人の子どもが、興味や好奇心をもとに、自ら遊びや生活に関わっていける保育をめざす	子ども理解を援助につなげる	保育者の予想や思い込みにならないように意識し、子どものありのままの姿を肯定的に捉えて、子ども理解を援助に反映させていったことで、昨年度より子どもの意欲向上へとつながった。また、園児数減少に伴い、職員全員が全園児の成長に関わる意識が高まり、職員間の伝え合いの場が増え、多くの保育者の目で子どもを理解していったことも成果につながったと考える。	A	保育所評価アンケートの自由記述にこれだけ多くの保護者が記入していることや、記入内容からも、質の高い保育を提供しているからこそだと分かる。また、職員全員で全園児を育てていこうとする姿勢が、より良い保育や援助、環境構成につながったと感じた。	A	引き続き、職員間での情報共有や伝え合いを活発化させながら子どもの育ちを捉えると共に、研究保育や事例研究を重ねながら一人一人に合った援助のタイミングや援助の仕方について学び、保育の質の安定と一人一人の子どもへの細やかな援助に努めたい。
			子ども理解を保育環境作りや再構成につなげる	子どもの興味を探りながら環境の見直しに取り組んだ結果、半数以上の子どもが提示した場や物を使って遊んだり、自分のやりたい遊びに活用したりするようになり、昨年度より主体性が向上した。担任は保育室や園庭の遊びスペースを整え、他職員も子どもの様子や担任の意図を共有したうえで環境整備を協力する等、組織的に取り組んだことも子どもの姿に結びついている。	B			複式クラスが多くなり、それぞれの年齢の育ちに合った経験ができているのか、環境構成についての迷いが生じることがあったことから、次年度は複式クラス、少人数保育の中での環境構成についての学びを深めて保育の充実を目指したい。
職員の育成・資質向上や運営	共通課題に向かう職員の協力体制づくり	防災意識の向上を図りつつ、避難開始からタワー待機中に至るまでの具体的な行動と環境整備を強化する	園児と職員の安全を確保するための、より実践的な避難訓練に取り組む	防災研修を通じて知識を深め、それと共に自分の気付きや考えの発信、子どもの防災意識を高める取り組み、組織的な情報共有等について実践したことで、職員間の連携や、自ら考え行動する意識が向上した。	A	今年の取り組み状況から、職員一人一人が自ら考え行動する意識を高めていることや、子どもたちの防災意識が高まっている様子が伝わってきた。また、避難生活を想定しながら様々なことを検討し、実際に試行する中で得た気づきを改善につなげていることから、子どもたちの命を守る体制の強化が進んでいると感じた。	A	次年度も引き続き知識の習得と実践的な訓練に励みたい。特に、管理職不在時や道路の寸断、負傷者の発生など、より深刻で多様なリスクを想定したシミュレーションに取り組んでいくことで、実効性の高い対応力の習得を目指していきたい。
			避難生活を安心かつ衛生的に送れるようにするための準備に取り組む	避難後の生活環境について話し合う機会を多く設け、今できることを考えながら準備に取り組んだ。7月の津波注意報発令時には、実際に簡易トイレの設置や遮光ネット張り、休息スペース設置や絵本・玩具等の活用を行い、有効性を確認できた。備蓄品や設営手順の把握度にはばらつきが見られた。	B			次年度は“手順の視覚化”に取り組み、ハード面ソフト面の両方から、避難の長期滞在を見据えた具体的な備えを進め、緊急時に誰もが迷うことなく迅速に環境を整えられる体制作りを図りたい。
地域に開かれた園づくり	保護者や地域と共に子どもの成長を支え、信頼される保育所づくり	子どもの育ちや保育者が大事にしていることを分かりやすく伝えるために、保育の見える化や説明の工夫に取り組む	保育や子どもの成長過程を肯定的に分かりやすく伝え、保護者の信頼や共感を育む	悩みを抱える保護者への個別対応や情報共有は円滑に行われており、担任一人で抱え込まずチームで保護者に寄り添う体制が定着できた。また保護者アンケートにおいても、育ちの分かりやすさや相談のしやすさに関する評価(90%)を得た。	B	保育所の防災への取り組みが保護者に伝わり、保護者の防災意識の向上にもつながっていることが伺えた。一方で、地域の人は園児がこんなに真剣に取り組んでいることについて知らない現状がある。今後は、園内や保護者向けの発信にとどまらず、保育所や小学校の取り組みや子どもたちの姿を地域へ発信していってほしい。その期待を込めての評価とした。	B	登降所時の対面機会が少ない保護者への支援方法として、お便りや連絡帳に加え、ICTや写真を用いたドキュメンテーション等の複数の手段を効果的に組み合わせ、保護者が安心感と信頼感を持って子育てに臨めるよう、丁寧な発信に努めたい。
			保育所の災害対応や避難訓練について伝え、子どもを守る保護者の協力体制につなげる	お便りやドキュメンテーションに加え、防災参観日や起震車体験等を通じて園の真剣な取り組みを直接伝えたことで、保護者の防災意識の向上につながった。保護者アンケートでの防災への取り組み評価(90%)や、ほぼ全家庭から寄せられた感想からも、園と家庭の協力関係が深まったものと捉えている。	B			子どもと保護者の命を守るためには、防災意識の維持・向上させることが不可欠である。今後も継続的な情報発信と啓発活動を行い、家庭と保育所が同じ思いで防災に取り組める、より強い協力体制を築きたい。

【評価基準】A:十分満足　B:おおむね満足　C:もう少し努力すべき　D:大いに努力が必要